

渡辺 年間必要な利益はいくらかというのを頭に置いて資金繰り表を作らないと意味がない。経常収支バランスが最も大事なんだ。ただ、そうは言っても、顧問先は200社以上あるけど、常に資金繰り表を作っているのは、よくて1、2割くらいじゃないかな。

類家 僕のところは100社弱の顧問先のうち、1、2割もあるかな。

渡辺 僕はマネジメントサイクルが回っていないと企業は成長しないって、よく顧問先の社長に話している。プラン、ドウ、チェック、アクションがそのサイクル。理念があって初めて売り上げ、経費、利益計画が存在する。それを

予算書に落とし込む。ここで資金繰り表が重要になってくる。これらがあって初めて行動が出てくる。明日は手形決済、あさっては給料日という「ドウ」だけで毎日終わっていたら、絶対会社は大きくできない。

類家 資金繰り表を作ってみて、初めて必要な利益が分かってくる。資金繰り表を作って利益体質じゃなかったら、一時的にカネは借りられても、やって

いけるはずがない。

渡辺 利益体質かどうか知ることには本当に必要なこと。貸し渋りでもし会社が潰れたら、自分の会社が利益体質じゃなかったと思ったほうがいいよね。



渡辺俊之

公認会計士

わたなべ・としゆき 1944年生まれ、早稲田大卒、75年渡辺公認会計士事務所設立

類家元之

公認会計士

るいけ・もとゆき 1949年生まれ、慶応大卒、84年類家公認会計士事務所設立

類家 往々にしてカネが借りられないのは環境のせいと自分のせいだと思っていないオーナーが多いね。

渡辺 これからは、実力のある経営者にとってはいい時代だと思う。担保があるだけで実力以上のカネが集まった時代はとくに終わっている。資金繰り表などをきちんと作って金融機関と接触すれば、カネが借りられるんだからね。